神奈川県

災害で施設が孤立しても耐え抜くためには　（第２弾）

給食施設のための備えセルフチェック表

平常時から取り組みたい地震防災対策を確認できます

内閣府では、首都直下地震（Ｍ７クラス）が30年以内に70%の確率で起こるとし、神奈川県地域防災計画では、東海地震が30年以内に87%の確率で起こるとして、被害を想定して対策を進めています。

東海地震 被害想定 （神奈川県地域防災計画より抜粋）

・条件 ： マグニチュード8.0、震源 駿河トラフ、冬18時
・建物 ： 全半壊　113,350棟以上　木造住宅を中心に損壊
・火災 ： 出火60件、焼失4,270棟
・停電 ： 68,550棟 （エレベーター停止16,090台）
・断水 ： 283,590世帯（3,844,525世帯のうち7.4%）
・電話 ： 53,640回線
・避難者：572,130人（建物被害、断水、エレベーター停止による避難者）
・帰宅困難者：774,350人（道路寸断、交通遮断による）

秦野市、伊勢原市が指定されている、地震防災対策強化地域（８市１１町）内での被害は大きいと言われています。

地域食生活対策推進協議会では、上記のような被害が起こった場合、給食施設ではどのような被害が考えられ、どのような対策が必要なのかを検討しました。

平成２６年６月に実施した備え状況調査を基に、秦野伊勢原地域での取り組みと合わせて、給食施設で平常時からの備えを確認するためのツールとしてまとめました。

防災対策は、チェックしたら終わり、満点取ったら万全とはなりません。災害時耐え抜くために施設では着実に取り組んでください。

今後も、その状況を取りまとめ、「平常時の備えセルフチェック表」を充実・発展させていきます。引き続きご意見いただけたら幸いです。

平成27年３月
神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター
地域食生活対策推進協議会

○ 「給食施設のための備えセルフチェック表」使用方法

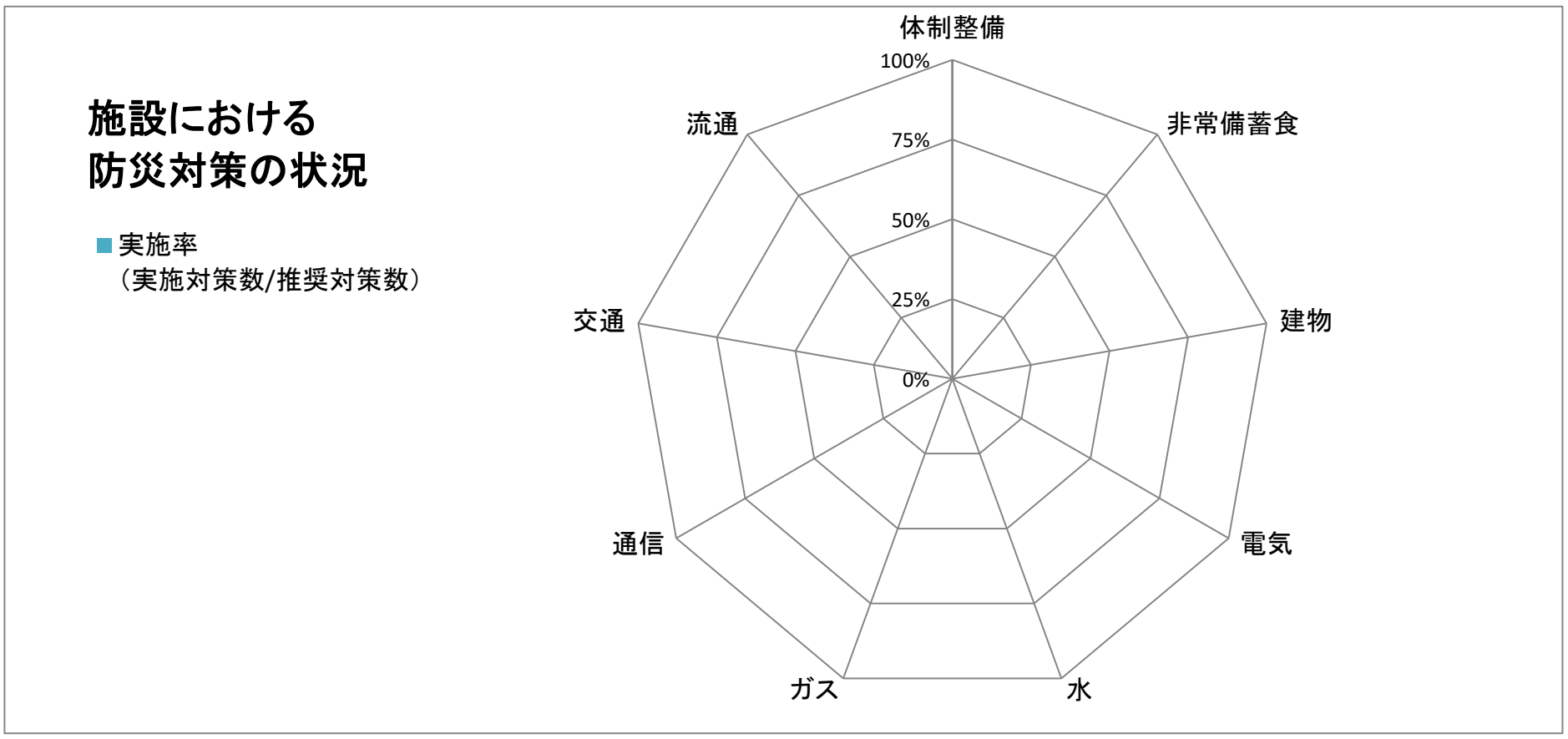
項目	趣旨・説明
被害想定	東海地震、首都直下地震の被害想定のなかで、給食施設に影響が考えられる被害想定を抜粋しました。
対策例	「被害想定」に対して、給食施設における課題・困ることを挙げ、それに必要な対応策を検討しました。優先順位を示すまで検討できなかったので、実施率を基に、施設で取り組みやすい順で記載しています。
秦野伊勢原地域の状況	平成26年6月、秦野伊勢原地域で1日3食給食を提供している施設を対象に調査し、回答を得られた全51施設を集計して掲載しています。 ＊は平成26年3月発行「災害に備えた非常備蓄食の考え方」よりポイントを抜粋しました。
実施率	全51施設のうち、何らかの対策がある施設の割合を掲載しています。
事例	調査で回答いただいた工夫していること、地域食生活対策推進協議会委員の施設における取り組みを掲載しました。これまで対策がなかった施設も、既に対策がある施設も、対策の充実に向けて参考になります。
施設での対策	施設での記入欄として設けました。
有無	「対策例」に対して、施設で実施されていることが「有○」か「無×」を記入してください。 （電子ファイルの場合はリストから選択してください。）
現状・取り入れたいこと	「有○」「無×」を選択した背景・理由、「事例」を見て参考になったこと・気がついたこと等を書き留める欄です。

○ 施設における防災対策の状況

セルフチェック表による対策有りの数から、実施率を出して、見える化してみませんか。
秦野センターホームページのファイルに入力すると、以下の表に反映され、レーダーチャートも表示されます。

但し、今回まとめることができた対策に対する実施率、有無に関する割合として、参考にご活用ください。
このチェック表・レーダーチャートでは対策内容や量について評価できませんので、施設の状況に応じて見直してください。

被害想定	推奨対策数（その他を含めず）	実施対策数（その他を含める）	実施率（実施対策数/推奨対策数）	参考　実施対策数ごとの実施率							
				0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個
体制整備	7		%	0%	14%	29%	43%	57%	71%	86%	100%
非常備蓄食	5		%	0%	20%	40%	60%	80%	100%		
建物	4		%	0%	25%	50%	75%	100%			
電気	4		%	0%	25%	50%	75%	100%			
水	5		%	0%	20%	40%	60%	80%	100%		
ガス	3		%	0%	33%	67%	100%				
通信	3		%	0%	33%	67%	100%				
交通	4		%	0%	25%	50%	75%	100%			
流通	3		%	0%	33%	67%	100%				



＜チェックをした後が重要です＞

Step1　栄養管理会議・防災会議等、施設でチェック結果・対策状況を共有する

Step2　対策の充実に向けて検討し、施設の年間計画に反映する

案①　今年の防災訓練には、実施率が低いところを取り入れる

案②　事例から参考になったことを取り入れる　　等々

Step3　実行する

ご感想、ご意見は
秦野センター栄養士までお知らせください

給食施設のための備えセルフチェック表

記入日：　　年　　月　　日

全被害想定に関わる対策		秦野伊勢原地域の状況・事例 ＊「災害に備えた非常備蓄食の考え方」より抜粋	施設での対策 有○ 無×	施設での対策 現状・取り入れたいこと
体制整備・強化	災害対策に関する位置づけがある	・組織的に動く体制がある　・担当者がいる		
	会議等、検討する場がある	・栄養・給食担当だけでなく、施設全体で検討する		
	災害対策、備蓄食について予算化している	・計画的に着実に進める　＊通常の食品を多めに保管する		
	防災訓練や研修会等、共有する場がある	・備蓄食の期限が切れる前に職員で訓練、試食している		
	災害時の食事提供に関する手順・マニュアルがある	・献立表とともに、指揮体制・役割・初期手順等を明記する ・施設全体の防災マニュアルと整合を図り、連動させる		
	職員の参集体制を決めている	・その体制に基づいた参集訓練を抜き打ちで実施している ・徒歩、車、電車等手段と時間による優先順位をつけている		
	地域の災害体制を把握している	・各関係機関の連絡先をリストにしている ・近くの給水所を把握し、その移動方法を決めている		
非常備蓄食	入所者・患者・職員の必要量を把握している	＊食数、1人当たりの必要量、日数により、必要量を示す		
	必要な食数・飲料水を備蓄している	＊備蓄食に必要な調理水も飲用と別に備蓄する		
	対象者に適した種類を備蓄している	＊対象者を踏まえた食種・食形態・特殊食品を備蓄する		
	適切な場所に保管している	＊発生時提供しやすい場所とする　＊運搬方法を共有する		
	備蓄食の運用について検討・共有している	＊献立表・写真と備蓄する　＊通常の給食に活用する		

被害想定	対策例	秦野伊勢原地域の状況（平成26年6月調査） 実施率	事例	施設での対策 有○ 無×	施設での対策 現状・取り入れたいこと
施設が損壊した 厨房が損壊した	調理済み食品を使用する	98%	缶詰・レトルト・フリーズドライ食品		
	個装された食品を使用する	88%	缶詰・レトルト		
	代替場所を使用する	67%	・調理場所は駐車場、マニュアルに記載し、周知している ・近所にテントを設置し、防災拠点として整備する		
	損壊時の使用限界を決めている	—	・衛生管理、食中毒予防に配慮した運用をする		
	＜その他＞　・発生直後は個装食品、体制を整えたら大缶の食品を提供する（マニュアル、献立表あり）				
電気が止まった	照明器具を使用する	92%	ランタン　・懐中電灯　・ろうそく		
	自家発電機を使用する	75%	・灯油を使用したポータブル発電機がある		
	蓄電器を使用する	10%	・貯水槽の配水用に備えている		
	エレベーター・ダムエーター停止時の代替策がある	—	・階段を使用する　・職員による配膳体制を決めている ・備蓄場所を検討する（上層階、中層階、各階配置）		
	＜その他＞　・電力の必要な調理機器、ガスのみで稼動する機器等を確認している ・給水や配水への影響を確認している　・作業用に頭に装着するライト（アウトドア用ヘッドライト）がある				
上水道が止まった	ディスポの備品を使用する	94%	手袋・ラップ・ホイル・ポリ袋・消毒用アルコール等 ・ウェットティッシュ（手洗いができないと思われるため）		
	ディスポの食器を使用する	94%	皿類・弁当箱・コップ・食具（スプーン、箸）等		
	貯水槽を使用する	75%	・貯水槽、受水槽により飲料水、調理水を賄う ・配水に電力が必要なため、電力も備蓄している		
	近くの水源を利用する	24%	井戸・湧き水等 ・施設内の井戸を把握、日頃より水質検査をしている		
	浄水機を使用する	12%	・手動式、電動式浄水機がある		
	＜その他＞　・雨水タンクを生活用水として活用する　・止水栓により、要所でのみ水を使用する ・給水所を利用する可能性があるので、場所を確認して、運搬方法を検討している ・使わなくなった食器を非常用に備蓄している（不安な状況でも、少しでもいつものように対応したい） ・賞味期限の切れた水を生活用水として備蓄している　・古新聞を備蓄している				
ガスが止まった	カセットコンロを使用する	63%	・ガスボンベと同じ場所に保管している		
	プロパンガスを使用する	53%	・平常時よりプロパンガス使用しており、残りを使用できる ・備蓄ガス用コンロがある　・イベントで定期的に活用している		
	他の熱源を使用する	33%	かまど　・七輪　・焚き火　・バーナー		
	＜その他＞　・電力のみで稼動する調理機器を確認している　・通常は都市ガスを使用しているが、都市ガス停止時は、プロパンガスを提供してもらう取り決めがあり、工事も実施した。（複数回答）				
電話が止まった	固定電話や防災無線以外の連絡手段がある	49%	・携帯電話のアンテナがあり、非常時使用できる ・災害時優先電話となっている		
	防災無線や衛星電話がある	37%	・訓練時に試している　・受信のみの無線がある		
	電話以外の連絡方法を決めている	—	取引業者の緊急連絡先（メール、携帯電話）を把握している		
	＜その他＞　・電気が止まっても使える電話機かどうかを確認している				
交通機関が止まった 調理従事者が出勤できない	職員間で次のことを共有している		手段（対象施設に対する実施率）		
	①備蓄場所	80%	会議(39%) マニュアル(37%) 防災訓練(33%)研修会		
	②備蓄食の内容	78%	献立表(53%) 会議(35%) 防災訓練(18%) 写真（6%）研修会		
	③食事の配慮が必要な対象者	71%	・献立表等により備蓄食と一緒に分かる(20%) ・会議等で周知している(22%)　・毎日の食札で把握している		
	④食事提供方法	53%	防災訓練(31%) マニュアル(28%) 会議(24%)研修会 ・提供方法を確認後、防災訓練で非常食を試食している		
	＜その他＞　・非常食献立表を数箇所に掲示し、周知を図っている ・地域や他機関と人的支援について取り決めをしている　＊施設の体制整備と連動することが多い				
食料、物品等搬出入ができない	備蓄食を使用する	100%	・まず在庫食材を中心に使用し、備蓄食を取り入れていく		
	ゴミの廃棄場所を決めている	75%	・施設内で場所を作る　・殺虫剤がある　・通常と同じ場所		
	他機関との協定・取り決めがある	39%	・委託給食会社と　・地域自治会と　・他施設と		
	＜その他＞　・取引業者の緊急時用連絡先（携帯、メール等）を把握している ・発生後の体制では、食事の提供に専念できるよう、食料、物品等調達担当を決めている				

平成26年度平塚保健福祉事務所秦野センター
地域食生活対策推進協議会　委員名簿

氏　名	所属、職等
松月　弘恵	神奈川工科大学　栄養生命科学科　教授
藤井　穂波	東海大学医学部付属病院　栄養科長（管理栄養士）
國見　友恵	鶴巻温泉病院　栄養科長（管理栄養士）
新井　雅美	秦野老人保健施設みかん　管理栄養士
河井　光枝	菖蒲荘　施設長
溝呂木　恭子	高齢者総合支援センター泉心荘　管理栄養士
草木　亜紀子	秦野精華園　管理栄養士
三浦　好則	レストヴィラ伊勢原　ホーム長
小宮　譲二	秦野市健康づくり課　参事兼課長
池田　幸枝	課長補佐（保健師）
深川　やよい	主査（管理栄養士）
山口　智英	伊勢原市健康管理課　課長
安部　京子	主査（保健師）
腰塚　愛	管理栄養士
南出　純二	神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター　所長（医師）
	事務局　秦野センター
髙橋　みどり	保健福祉課　課長（管理栄養士）
中塚　さおり	技師（管理栄養士）
露木　わかば	臨時技師（管理栄養士）
田倉　悦子	管理企画課　主査（保健師）

●問い合わせ、相談窓口●

神奈川県平塚保健福祉事務所　秦野センター　保健福祉課
秦野市曽屋２－９－９
電話　0463-82-1428
ﾌｧｸｼﾐﾘ　0463-83-5872

●様式のダウンロード●

当センターホームページにて入力用様式（エクセル）・記入用様式（PDF）を掲載しています。
そちらもご活用ください。